

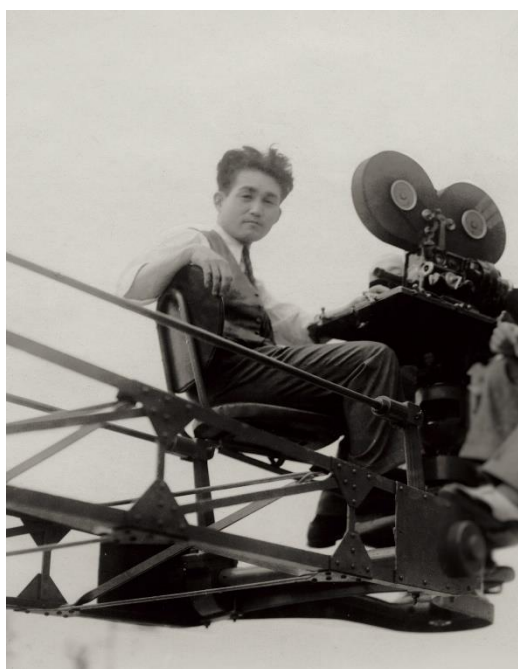
生誕120年 展覧会 円谷英二展

Eiji Tsuburaya: On the 120th Anniversary of his Birth

2021年8月17日 [火] - 11月23日 [火・祝]

国立映画アーカイブ 展示室 (7階)

《特撮の父》 — その黎明から開花へ



クレーンに乗る円谷英二 (1934年)
国立映画アーカイブ所蔵

私たちは「ゴジラ」や「ウルトラマン」のいない日本の映像文化の歴史を想像できるでしょうか？ さまざまな特殊撮影の技術を駆使した日本の映画・テレビ作品は、世界各国のファンの心をつかみ、現在も限りないリスパクトに包まれています。そして日本の映像界が世界に誇るこうした技術を切り拓いた“**特撮の父**”**円谷英二** (1901-1970、本名英一) は、この2021年に生誕120年を迎えます。

福島県須賀川市に生まれ、若き日は飛行機の操縦士を目指した円谷は1919年に東京で映画界に入り、関東大震災後に京都で衣笠貞之助監督率いるグループに参加したのち、松竹の時代劇のカメラマンとして頭角を表します。アメリカ映画『キング・コング』(1933年)に魅入られて特撮の研究を始めた円谷は、東宝撮影所の航空映画に貢献し、戦争映画『ハワイ・マレー沖海戦』(1942年)では日本映画界全体に特撮の意義を知らしめました。そして戦後、たゆまぬ創意工夫を通じ、日本初の「特技監督」として数々の特撮映画・怪獣映画を送り出すとともに、1963年には円谷特技プロダクション(現・円谷プロダクション)を興してテレビ特撮の礎を築き、後進の育成にも努めた史実は誰もが知るところです。

近年、東宝特撮映画や円谷プロの「ウルトラマン」シリーズなどの特撮をめぐる研究は高度な達成を見せ、名スタッフの功績や技法に注目した展覧会も頻繁に行われていますが、これまで円谷自身を日本映画史の中に位置づけようとする機会は多くありません。その生誕120年を記念して、須賀川市との共催により実現する本展は、イギリスで新たに発掘された円谷撮影の初期作品『かぐや姫』(1935年)も含めて、若き日の功績にも注目しながらその生涯を紹介します。

展覧会の構成

第1章 | 若き映画カメラマンとして

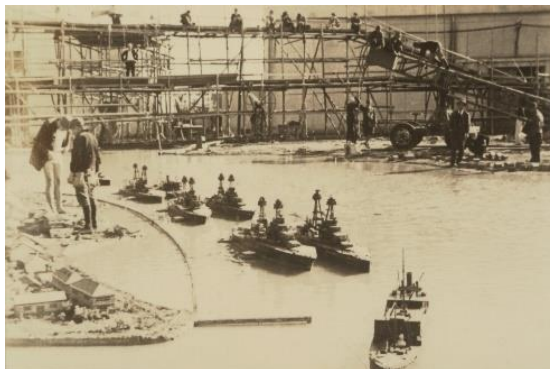
円谷英二は現在の福島県須賀川市に生まれ、パイロットを目指して上京するも、運命に導かれるように映画界に入ります。日本映画草創期の名カメラマン枝正義郎の下で修業した円谷は関東大震災後にカメラマンとして一本立ちしたのち、京都に移り松竹下加茂撮影所で本格的に**カメラマンとして活動を開始**しました。本章では松竹下加茂時代を中心に、数々の貴重な写真やポスター、台本、雑誌などから、円谷がその撮影技術の基礎を作り、特撮という次のステップに進むまでの時代をたどります。



『乱軍』(1927年、松竹下加茂、犬塚稔監督、円谷英二撮影) ポスター

第2章 | 特撮への志

アメリカ映画『キング・コング』に衝撃を受けた円谷は、現在の東宝の前身会社のひとつであるJ.O.スタジオへの入社を転機に、**合成技術**や**スクリーン・プロセス**といった撮影技術を深化させてゆきました。その努力は日独合作の『新しき土』(1937年、アーノルト・ファンク&伊丹万作監督)をきっかけに注目され、やがて航空機がテーマとなる映画で特撮技術を大きく前進させ、戦時下の『ハワイ・マレー沖海戦』(1942年、山本嘉次郎監督)では日本映画界に特撮の意義を決定的に印象づけました。本章では、円谷がそれまでに築き上げたカメラマンのキャリアから特撮というフィールドに踏み出して、その地位を確立した時代をたどります。



(左から)
 『小唄 鳥追お市』(1936年、J.O.スタジオ、円谷英二監督)
 『ハワイ・マレー沖海戦』(1942年、東宝、山本嘉次郎監督) 真珠湾セット撮影スナップ

第3章 | 東宝特撮の時代

終戦後、円谷は戦時中に手掛けた戦意高揚的な映画の見事な特撮が仇となって不遇の時代を迎えました。しかし特撮の重要性はすでに必要不可欠となっており、その卓越した技量は1954年の記念碑的な『ゴジラ』(本多猪四郎監督)第一作によって日本映画に特撮映画・怪獣映画という新しいジャンルを開きました。本章では『ゴジラ』に始まる様々な作品のポスターと並んで、円谷英二の故郷に設立された須賀川市アーカイブセンターの保存資料も展示し、その仕事が最も知られている時代の円谷の足跡をたどります。

第4章 | 円谷プロの創設

1963年に円谷特技プロダクション(現・円谷プロダクション)を設立してから1970年に亡くなるまでの間に、円谷は多くの後進を育てながら、1966年1月放映開始の『ウルトラQ』をはじめとするテレビの特撮番組という新たな路線を確立しました。怪獣が世間的な人気を集める一方で、円谷は若き日に憧れた日本の初期のパイロットたちを描く「ニッポン・ヒコーキ野郎」という企画を長年温めていました。本章では円谷の晩年の活動をたどります。

見どころ

- ★本展では、『ゴジラ』をはじめとして「特撮の父」として広く知られる円谷英二の仕事だけでなく、映画界入りしてからカメラマンとして時代劇映画の撮影で独自の地位を築いた前半生のキャリアに特に注目し、デビュー作とされる『延命院の僂男』（1924年）上映館のプログラム（複製）や、松竹下加茂撮影所在籍時代の貴重な写真の数々、また円谷が1932年の設立に参加した日本カメラマン協会発行の機関誌『カメラワーク』など、これまで知られていなかった貴重な資料を展示します。
- ★近年、イギリスの英国映画協会（BFI）で見つかった円谷英二撮影作品『かぐや姫』（1935年）の一部を展示室内のモニターでご覧いただくことができます。
- ★国立映画アーカイブ所蔵の特撮映画・怪獣映画ポスターの中から、8枚組の『モスラ』（1961年）、3枚組の『世界大戦争』（1961年）や『キングコング対ゴジラ』（1962年）など公開当時の貴重なポスターの数々を展示しています。
- ★円谷英二の生まれ故郷、福島県須賀川市の須賀川特撮アーカイブセンターからは、お馴染みの東宝マークを撮影するための機材や『青島要塞爆撃命令』（1963年）に使われた輸送列車ミニチュアの貨車の台車などが出品されます。



（左から）「カメラワーク」1933年4月臨時号（日本カメラマン協会）、『かぐや姫』（1935年、J.O.スタジオ、田中喜次監督、円谷英二撮影）、『長篇怪獣映画 ウルトラマン』（1967年、円谷プロ、円谷一監督）ポスター

関連上映企画

『かぐや姫』上映企画


2021年9月4日（土）、5日（日）

会場：国立映画アーカイブ 小ホール（地下1階）

円谷英二が撮影を手掛けた『かぐや姫』（1935年、J.O.スタジオ、田中喜次監督）の海外向けの再編集短縮版がイギリスで発見され里帰りしました。

* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

開催概要

	<h2 style="text-align: center;">生誕 120 年 円谷英二展</h2> <p style="text-align: center;">Eiji Tsuburaya: On the 120th Anniversary of his Birth</p> <div style="text-align: right;">  <p style="font-size: small;">展覧会チラシ</p> </div>
主催	国立映画アーカイブ、須賀川市
特別協力	円谷プロダクション
会期	2021 年 8 月 17 日 (火) ～11 月 23 日 (火・祝)
休室日	月曜日および 9 月 7 日 (火) ～10 日 (金)、9 月 26 日 (日) ～10 月 3 日 (日)、10 月 12 日 (火) ～15 日 (金) は休室です。
開室時間	午前 11 時～午後 6 時 30 分 (入室は午後 6 時まで) * 毎月末金曜日は 11:00am-8:00pm (入室は 7:30pm まで)
会場	国立映画アーカイブ 展示室 (7 階)
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口 1 から昭和通り方向へ徒歩 1 分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口 A4 から中央通り方向へ徒歩 1 分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口 7 より徒歩 5 分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩 10 分
料金	一般 250 円 (200 円) / 大学生 130 円 (60 円) / 65 歳以上、高校生以下及び 18 歳未満、障害者(付添者は原則 1 名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 * 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。* () 内は 20 名以上の団体料金です。 * 学生、65 歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。 * 国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券 (半券可) をご提示いただくと、1 回に限り団体料金が適用されます。 * 2021 年 11 月 3 日 (水・祝)「文化の日」は、無料でご覧いただけます。
	新型コロナウイルス感染症拡大防止策につきましては、当館 HP をご確認ください。 https://www.nfaj.go.jp/ge/topics/20200625/
お問合せ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
HP	https://www.nfaj.go.jp/exhibition/tsuburaya120/

【本展覧会に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 事業広報担当：横田 / 展示・資料室：岡田・濱田

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 MAIL : pr@nfaj.go.jp TEL : 03-3561-0823 FAX : 03-3561-0830

広報用画像 & 読者プレゼント招待券申込書 生誕 120 年 円谷英二展

送付先 **国立映画アーカイブ 広報担当** メール：pr@nfaj.go.jp FAX：03-3561-0830

* 広報用画像をご希望の方は、本プレスリリースに掲載されている画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの□にチェックをつけ、上記の宛先までをご送付ください。

①	クレーンに乗る円谷英二（1934 年） 国立映画アーカイブ所蔵
②	『乱軍』（1927 年、松竹下加茂、犬塚稔監督、円谷英二撮影）ポスター 国立映画アーカイブ所蔵
③	「カメラワーク」1933 年 4 月臨時号（日本カメラマン協会） 国立映画アーカイブ所蔵
④	『かぐや姫』（1935 年、J.O.スタチオ、田中喜次監督、円谷英二撮影） 国立映画アーカイブ所蔵
⑤	『小唄磔 鳥追お市』（1936 年、J.O.スタチオ、円谷英二監督） 国立映画アーカイブ所蔵
⑥	『ハワイ・マレー沖海戦』（1942 年、東宝、山本嘉次郎監督）真珠湾セット撮影スナップ 国立映画アーカイブ所蔵
⑦	『長篇怪獣映画 ウルトラマン』（1967 年、円谷プロ、円谷一監督）ポスター 国立映画アーカイブ所蔵
⑧	展覧会チラシ

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名（合計	枚） 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさで明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. **画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。** 6. 掲載紙（誌）は、1 部、広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。

*** 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。**

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____